えひめ農業のトップランナー

農事組合法人「吉田」（西条市）

儲かる農業で新たな集落営農組織を目指す

農事組合法人「吉田」
鈴鹿代表理事（後列左から２人目）ら

農事組合法人吉田は、「公平・公正、農地を遊ばせない」をモットーに、儲かる農業を目指す。経営規模の拡大に伴い、年間通して労力分散を考慮した高収益作物を導入、機械化、省力化を進めて女性や高齢者が活躍できる場を作り、構成員の所得向上と法人経営の安定化を図っている。組織の将来の原動力となる構成員確保に向けて、新規就農者の常勤雇用や研修生受け入れなど担い手の育成に努める。さらに、地元の組織と協力して景観形成活動や地産地消活動、幅広い世代との交流活動にも取り組み、地域の担い手として信頼される存在になっている。

❋農事組合法人「吉田」の概要

代表者	鈴鹿清重代表理事組合長
理事	5人
構成員	54戸
設立年度	平成17年吉田上生産集団立ち上げ
	平成18年吉田上生産組合設立
	平成27年農事組合法人「吉田」設立
資本金	1,278万3,000円
経営耕地面積	51 ha
栽培作物	水稲・裸麦・大豆・里芋・タマネギ・メロン
作付面積	93 ha
収入	1億300万円（平成30年度）

❋「吉田」を設立した経緯は

生産調整で水稲の作付けが制限されたことから、「このままでは農地が荒れていく」と、吉田上集落の農家有志7戸が農地10ha集積し、平成17年に裸麦を中心とした生産組織「吉田上生産集団」を立ち上げた。平成18年、品目横断的経営安定化対策に併せて、荒廃農地が増えることを見越し、地域農業の維持発展を目的とする集落営農組織「吉田上生産組合」（構成員26戸、集積農地26ha）を設立した。その後、地域の担い手として活動エリアを地区全体に広げ経営規模を拡大する。平成27年、雇用の確保、営農組織の円滑化、経理の透明性を図るために農事組合法人吉田を設立した。

❋「吉田」の運営方法や構成員の役割分担は

設立以来、組合長や理事だけに負担をかけないよう構成員全員で役割分担して組織運営に取り組む。水稲・裸麦・大豆など品目ごとに栽培方針を決める栽培部長、地域の農地を数ブロックに分け中心的に管理するブロック長、運営部長、機械・軽油担当、会計担当、総務担当、女性部、青年部など全員が役割を担うことで機能的な運営、部門間の連携を図っている。

❋「吉田」の経営方針は

当初から、水稲は構成員の飯米のみの生産とし、裸麦と大豆に重点を置く。裸麦を中心に水稲と大豆を組み合わせた作付け体系を確立。水稲を間作として作付けすることで、裸麦や大豆の連作障害による収量・品質低下を抑制、雑草の発生防止効果も上げている。労力分散、単位面積当たりの収益性向上、女性・高齢者が活躍できる場づくりを考慮し、収益性の高い作物を順次導入。平成24年度に里芋、平成28年度に加工用タマネギ、平成30年度にブロッコリー、令和元年度はメロンを導入した。新たな作物を導入する際はＪＡ周桑の営農指導員や県普及指導員に現地指導を依頼し、積極的に栽培技術を習得し、安定的収量の確保、高品質生産につなげている。

大豆畑の除草作業

❁ 栽培技術や営農で工夫している点は

メインの裸麦と大豆栽培は機械化体系を確立。裸麦は播種時に耕運と施肥作業を同時に行う栽培技術、大豆は慣行より株間を狭くした耕運同時播種方式で無中耕無培土の栽培技術を確立し、作業の省力化、低コスト化を進めている。大型機械の導入は法人の強みを生かして助成金を活用、農業経営基盤強化準備金制度も活用して計画的に農業機械を更新している。現在、トラクター、田植え機、コンバイン、タマネギの植え付け機、掘り取り機、収穫機、乾燥機などを整備し作業を効率化している。また、既存の機械を改良したり、工夫をして燃料コストや労働時間を短縮し生産コストを低減している。

❁ 作業管理で工夫している点は

機械ごとに責任者を置いて利用計画を立て効率的に運営、毎月の定例会で翌月の作業内容や作業割り当てを確認し円滑に作業を進めている。管理ほ場が400筆もあるため、各ほ場に小型掲示板を設置、ほ場の位置や前日の作業内容を表示して情報を共有し作業リスクを回避している。

農業機械

令和元年度の栽培面積は水稲10・4ha、裸麦42・9ha、大豆32・8ha、里芋2・9ha、タマネギ4・1ha。若い常勤者の確保に向けて新たにハウスメロン8aを導入した。農作業は構成員・家族らを中心に計画的、短期集中型適期作業で高品質生産に務めている。収穫、草刈りや防除などの重労働は男性が主体に行い、野菜の調製作業など軽作業は女性や高齢者が分担し、女性の負担軽減と高齢者の生きがいづくりにつなげている。夏期の重労働は半日作業にするなど安全、健康管理を考慮、1ヵ月に5日以上の休日が取れる作業体系をとっている。

作業賃金は、機械オペレーターは時給1,500円～2,000円（トラクター作業と田植え作業は助手も同額）、一般作業は男性で時給1,300円、女性で軽作業は時給1,000円。単価を高く設定することで構成員の意欲を高め、所得向上につなげている。

❁ 多くの集落営農組織は後継者確保に苦労していると聞きますが、「吉田」の後継者育成は

構成員は70代～80代が多く、後継者育成が課題だ。長年組織を牽引してきた鈴鹿清重組合長（78）は令和2年度、篠森均理事（59）に組合長をバトンタッチし、リーダーの若返りを図る。将来の担い手確保に向けて平成30年、新規就農者（34）を常勤雇用、若手オペレーターの募集や農業大学校から研修生を受け入れるなど新規就農者の確保に努めている。Uターン者や後継者による青年部を設置して農作業への積極的な参加を呼びかけ、将来の構成員育成に力を入れる。

❁「吉田」の将来像は

国営緊急農地再編整備事業「道前平野地区」で取り組むほ場整備が完了すれば、さらに大型機械の導入、省力化が進み、法人としてより安定的な経営ができる。地域の担い手として、地元関係機関と連携して100年先の農業・生活環境を見据え、安全で住みやすい集落づくりを目指す。

里芋の選別作業

取材後記

吉田を訪問した際、構成農家の方たちが和気藹々と、楽しそうに作業する様子から、構成農家にとっても満足度の高い、安定した法人経営がなされていることが伺えました。吉田は、構成員の高齢化で法人の存続が難しくなることを見越し、将来の地域農業の担い手を確保するために若手従業員を雇用。その費用を確保するために新たな高収益作物を導入するなど攻めの姿勢で〝給料の払える、儲ける集落営農法人〟を実現し、先進的モデルとして評価されています。組織の継続・発展には、厳しさと温かさで組織をまとめ、牽引するリーダーの存在が重要と改めて感じました。

コンサルタント　山岡　憲子